

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02330

研究課題名（和文）授業における教師の道徳的判断に関する実態調査に基づく実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study of Teachers' Moral Judgment in Teaching

研究代表者

増田 美奈（Masuda, Mina）

富山大学・学術研究部教育学系・講師

研究者番号：80736885

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、第一に、協働的で探究的な授業における教師の道徳的判断の特徴を明らかにするための理論枠組みを提出したことである。授業における教師の価値判断に内包される、教室外からの影響を解釈する際の視点を新たに見出した。第二に、各学校での探究的な授業に向けた同僚教師たちとの学び合いによって、授業中の子どもの探究を支える教師の自律的な判断が促されていたことを実態調査によって示したことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教科内容の知識や指導技術等と異なり、授業における教師の判断は、具体的な内容が捉えにくい傾向にある。そのため、授業中の教師の判断をいかに成熟させていくかということについても、教師たちによって経験的に把握され、同僚の先輩教師から徒弟的に学ばれてきた。本研究では、授業中の教師の判断を価値に関わる道徳的判断と捉えて実証的に特徴を明らかにするための理論枠組みを提示したことにより、教師の専門性とその育成を巡る議論に新たな視点を提供することができた。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are, first, the submission of a theoretical framework for identifying the characteristics of teachers' moral judgments in collaborative and inquiry-based classes. I have found a new perspective in interpreting the influences from outside the classroom that are implicit in teachers' value judgments in teaching. Second, I found that teachers' autonomous decisions supporting children's inquiry in the class were facilitated by learning with their colleagues in each school.

研究分野：教育学

キーワード：教師の道徳的判断 協働的な授業 探究的な授業 教師の専門性

1. 研究開始当初の背景

2017年に告示された学習指導要領において、学校での授業で「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことが提起された。その実現に向け、教師が一方的に教える知識伝達型授業から、子どもたち自身が自分とは異なる他者との協働の中で知識や技能を獲得し、活用し、深く思考しながら学んでいく協働的で探究的な授業への変革が求められた。すなわち、授業の只中で、個々の子どもたちの思考や関心の流れ、つながりを即興的に捉え、その都度適切に応答する状況判断が、教師にはこれまで以上に求められるということである。

探究的な授業において教師の状況判断は不可欠の要素とされるが、授業における教師の判断に関する研究は、教師の意思決定研究として70～80年代にかけて行われて以来、現在に至っては見当たらない。その理由として、教師の意思決定研究で追求された授業中の教師の判断の合理的モデルが、知識伝達型授業における、予め決められた選択肢の中からの選択として判断を想定しており、判断に含まれる価値に関わる側面を捨象しているためと考えられる。授業を知識伝達を目的とした目的-手段連関の教示ではなく、多様な価値の方向性を内在させる探究的实践と捉え、その実践における教師の判断の特徴を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、授業において機能する教師の道徳的判断の特徴について、実態調査に基づく事例分析を通して実証的に解明することを目的とする。その際、理論的基盤とするのは、1980年代以降のプラグマティズム・ルネサンスの動向を反映してアメリカの授業研究において行われている、授業に内在する道徳的側面に着目する研究知見である。中でも、教師の道徳的知覚研究と教師の教授スタイル研究に着目したい。これらの知見をもとに、授業における教師の判断を、常に何らかの価値の方向性を含み込んだ道徳的判断として捉えることによって、授業という複雑な実践における教師の判断の特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、協働的で探究的な授業において機能する教師の道徳的判断の特徴を明らかにするための理論的枠組みの構築と、公立小中学校の授業や授業研究会、行政主催の校内研修活性化研修会におけるアクションリサーチとフィールドワークを軸に研究を進めた。

具体的には、まず授業における教師の道徳的判断の特徴を実証的に明らかにするための先行研究の検討とそれに基づく理論構築である。教師の道徳的知覚と教授スタイルのそれぞれについて、価値判断との関連において断片的に明らかにした事例研究は存在するが(増田・藤井 2011, 増田 2013)、授業における道徳的判断の全容を解明するための実証的研究は存在しない。よって、授業における教師の判断や授業の道徳的側面について扱った最新の研究を検討しつつ、ナラティブ研究等の知見も検討に加えながら進める。

第二に、研究対象予定校での授業の参与観察と教師へのインタビュー調査を行う。インタビュー調査については、授業場面における教師のナラティブを聴きとり、記録する。

第三に、研究対象予定校も含めた複数の公立小中学校への校内研修会と、教育行政主催の校内研修活性化研修会に参加し、校内研修会の授業研究会を中心に、同僚教師と共有されるヴィジョンが個々の教師の授業実践やその授業における判断にどのように影響を及ぼしているかについて実態調査する。

4. 研究成果

(1) 2018年度の成果

2018年度は、協働的で探究的な授業における教師の道徳的判断の特徴について実証的に明らかにするための理論的枠組みを構築するために、以下の三点を中心に研究を進めた。

一点目は、協働的で探究的な授業における教師の在り方やその成立要因、子どもたちの学習への影響についての研究を整理、検討し、その成果を地域の教師たちによる研修会で報告した。(増田(2018)「主体的・対話的で深い学びとは～子どもの学びの姿から、共に考える」富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 平成30年度公開研修会講演, 8/10, 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 / 増田(2018)「主体的で対話的な学びの場の創造」魚津市小学校教育研究会研究大会講演, 1/21, 新川学びの森 天神山交流館)

二点目は、授業における教師の道徳的判断の特徴について実証的に明らかにするための理論的枠組みの重要な要素となる三つの研究、授業における教師の道徳的知覚に関する研究、教師の実践的推論に関する研究、教師のナラティブに関する研究の理論的検討を進めた。

三点目は、研究対象予定校との調整が付き、校内研修会における授業参観と授業研究会に各校複数回参加することができた。授業参観と授業研究会の様子は、フィールドノートと音声データで記録することができた。

(2) 2019年度の成果

2019年度の成果は、前年度に引き続き、理論的枠組みの構築と、研究対象予定校の授業研究会

の参加と授業参与観察、教師へのインタビュー記録の収集等の予備調査を行ったことである。

具体的には、理論枠組みについては、教師のそれまでの価値判断が表現された習慣として教授スタイルを捉え、教師自身による教授スタイルの理由づけや意味づけによる実践的合理性に着目することで、授業において機能する教師の価値判断に迫ることが可能となること、教授スタイルの実践的合理性の解釈の際に、過去・現在・未来という連続性をもった時間的視座と、教師や学校を取り巻く社会的視座との関連で捉える必要があることを、種々の文献検討をもとに明らかにし、その成果を日本教育方法学会第 55 回大会自由研究発表において報告した。(増田(2019)「対話的な授業における教師の教授スタイルを捉える視座」日本教育方法学会第 55 回大会・自由研究発表, 9/28, 東海学園大学)

予備調査については、研究対象予定校の授業研究会に三ヶ月に一度のペースで参加したほか、授業の参与観察と教師へのインタビュー調査を実施、記録を行い、記録データの整理、分析に着手することができた。

(3) 2020 年度の成果

2020 年度の成果は、予備調査として 2019 年度に行った研究対象校での授業の参与観察と教師へのインタビューの記録データの分析を行い、その結果をもとに、協働的な授業における教師の道徳的判断の特徴を実証するための理論枠組みの構築の新たな視点を析出することができたことである。

具体的には、ガート・ビースタ(G. J. J. Biesta)が提起する教師の授業実践に伴う三つの重要な判断についての論考が、授業において機能する教師の価値判断に内包される、教室外からの影響を解釈する際の重要な視点を提供することを見出した。「何のためにその活動や行為を行うのか」という教育の目的に関わる教師の判断を、ビースタによる「資格化」「社会化」「主体化」の観点で解釈することで、授業中の教授行為に働く教師の価値判断に、例えば、学校の中に持ちこまれる新しい教育政策や方針、社会から学校に向けられる無言の期待や要請等がどのように影響を及ぼしているのか、詳細に迫ることができることを析出することができた。

2020 年度に行う予定であった研究対象校での本調査は、新型コロナウイルス感染症に係る休校措置等により行うことができなかったが、いくつかの小中学校の校内研修会の授業参観と授業研究会には参加を継続することができた。

(4) 2021 年度の成果

2021 年度は、再開された複数の小中学校の校内研修会に参加し、コロナ禍における授業の変容とその変容に依る教師の授業スタイルの変化について、授業の参与観察と教師へのインタビュー調査を行った。また、この間構築を試みてきた、協働的で探究的な授業における教師の道徳的判断の特徴を明らかにするための理論枠組みを成果として論文報告することができた。(増田 2022)

理論枠組みについて、具体的には、子どもたちの対話的で探究的な授業における教師の判断の複雑さを捉える契機として、教師の教授スタイル概念に着目し、教授スタイルに現れる教師の価値判断を解釈する枠組みと視点を提示した。(1)教授スタイルは教師のそれまでの価値判断が表現された習慣であり、授業中の至るところに様々な「仕方(way)」として表現されているため、教授スタイルに着目することで、授業における教師の価値判断に迫ることが可能になること(2)教師自身による教授スタイルの理由づけや意味づけによる「実践的合理性」を解釈する際に、過去・現在・未来という連続性をもった時間的視座で捉え、かつ、教師や学校を取り巻く社会的状況との関係で捉える必要性があること、を明らかにし、その上で、(2)で見出された課題を解決するために、ナラティブ探究についての研究から、教授スタイルの「実践的合理性」に関する語りに見出される教師の価値判断を重層的に捉える枠組みを示し、ビースタによる教師の判断について論考から教師の価値判断の重層性の内実を解明するために、授業における「資格化」「社会化」「主体化」の三次元でその重層性を捉え、教師による三次元間のバランスのとり方や対処の仕方に着目する視点を提示した。

(5) 2022 年度の成果

2022 年度は、前年度から引き続き富山県内の小中学校の校内研修会に加え、行政主催の校内研修活性化研修会に参加することを通して、校内研修会で同僚教師と共有されるヴィジョンが個々の教師の授業実践やその授業における判断にどのように影響を及ぼしているかについて実態調査を行った。

調査の分析の結果、明らかとなったのは以下の点である。第一に、2017 年告示の学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」のビジョンが示されて以降、各学校の授業研究会で少しずつ、参観する教師たちの視点が「いかに教師が教えているか」ではなく「いかに子どもたちが学んでいるか」という視点にシフトしてきていること、第二に、教師たちのその視点のシフトと連動するように、子どもたちの探究的な学びを保障する授業改善への挑戦が各校で取り組まれていること、第三に、各校の授業研究会における探究的な授業に向けた同僚教師の学び合いによって、授業中の子どもの探究的な学びを支える教師の自律的な判断が促されていたことである。

この調査の成果は、富山大学-JICA エチオピア国別研修(オンライン)「カリキュラム開発、実施、評価を通じた理科教育における持続的な学びの改善」において報告し、エチオピアの教育行政関係者らと共有することができた。(増田(2022)「学習指導要領の実践に向けた学校現場の取り組み-校内研修を通じた教育実践の改善」富山大学-JICA エチオピア国別研修「カリキュラ

ム開発、実施、評価を通じた理科教育における持続的な学びの改善」,8/29-9/2,富山 & Ethiopia・Addis Ababa)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、開始当初に予定していた研究内容からは変更が迫られたが、コロナ禍においても授業において子どもたちの探究的で対話的な学びを保障するために教師や学校、教育行政が試行錯誤を行っており、それが一人ひとりの授業中の教師の判断に影響を及ぼしている実態を明らかにすることができた。

【参考・引用文献】

- Biesta, G. J. J. (2010). *Good education in an age of measurement: Ethics, politics, democracy*. Paradigm Publishers. / (2011) 『よい教育とはなにか—倫理・政治・民主主義』藤井啓之他訳, 白澤社.
- Biesta, G. J. J. (2015). What is education for? On good education, teacher judgement, and educational professionalism. *European journal of education*, 50(1), pp.75-87
- Biesta, G. J. J. & Stengel, B. S. (2016). Thinking philosophically about teaching. In D. H. Gitomer, & C. A. Bell(Eds.), *Handbook of research on teaching(5th ed.)*. American Educational Research Association, pp.7-67.
- 増田美奈・藤井康之(2011)「小学校授業における教師の道徳的知覚の変容—シンプソンとギャリソンの概念を手がかりに—」『教育システム研究』第6号, pp.35-58.
- 増田美奈(2013)「小学校授業における教師の教授スタイルの道徳的側面—価値判断の現われとしての教授スタイル概念に着目して—」『学校教育研究』第28号, pp.110-122.
- 増田美奈(2022)「対話的で探究的な授業における教師の教授スタイルを捉える視座」『富山大学人間発達科学部紀要』第16巻第2号, pp.73-81.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 増田 美奈	4. 巻 16
2. 論文標題 対話的で探究的な授業における教師の教授スタイルを捉える視座	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 富山大学人間発達科学部紀要 = Memoirs of the Faculty of Human Development University of Toyama	6. 最初と最後の頁 73～81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15099/00021558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 9件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 子どもの学び合いを支える実践に向けた教師同士の学び
3. 学会等名 令和3年度校内研修活性化研修会(富山県教育委員会主催)（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習評価と授業改善
3. 学会等名 富山県立高岡支援学校障害種別研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり
3. 学会等名 富山県立ふるさと支援学校障害種別研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 学びに向かう力を育む「主体的・対話的で深い学び」
3. 学会等名 滑川市立西部小学校学力向上拠点校研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 これからの時代を生きる子どもたちの学びとは
3. 学会等名 教育フォーラム2021(富山大学人間発達科学研究実践総合センター主催)（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 育成を目指す資質・能力の獲得に向けた「主体的・対話的で深い学び」
3. 学会等名 富山県立高岡支援学校障害種別研修会講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 これからの時代を生きる子供たちの学びとは
3. 学会等名 富山大学データサイエンス教育事業キックオフミーティング「GIGAスクール構想が目指す学びの姿と大学による支援」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 主体的で対話的な学びの場の創造
3. 学会等名 魚津市小学校教育研究会研究大会講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 今、道徳教育について共に考える
3. 学会等名 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校公開研修会講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田 美奈
2. 発表標題 対話的な授業における教師の教授スタイルを捉える視座
3. 学会等名 日本教育方法学会第55回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

増田美奈(2022)「学習指導要領の実践に向けた学校現場の取り組み-校内研修を通じた教育実践の改善」富山大学-JICAエチオピア国別研修「カリキュラム開発、実施、評価を通じた理科教育における持続的な学びの改善」, 8/29-9/2, 富山&Ethiopia/Addis Ababa
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------